

「らしき」輝く附属小



第10号 令和8年 6月 5日(金) 校長 森内 秀学

学び続ける6月になるために

運動会が終わり、「研究」の使命を負う本校教職員にとっても、学びを深める時期になりました。下は、国語科担当の村崎先生の「スイミー」の授業を、本校の研究テーマである「自律した学び手を育てる」という視点から分析し、協議しているときの写真です。大学院生も、一緒に学びました。



「自律した学び手」というのは、「なりたい自分に向かって、仲間と共に学び、自分を磨き高めていく子ども」のことです。受験に限らず、学びは一生続きます。だからこそ、学ぶことに前のめりな子どもにしたいと考えているのです。

そのためには、家庭の協力も不可欠です。今後、学びを継続するために欠かせないタブレット端末を、学年に応じて、家庭に持ち帰らせる計画です。自己コントロール力がついていない子どもは、ゲームやYouTubeにはまるかもしれません。だからといって、取り上げたままだと、学び続ける力も、学力も、自分をコントロールする力もつきません。

しかし、保護者の御協力があれば、ここがしっかり身に付いていくはずです。

6月は、学びの月です。子どももよりよい学びができるよう、ぜひ、御協力ください。



プールで安全祈願

掃除が終わり、きれいな水が張られたプールで、今年も、安全祈願をしました(左)。毎年、日本のどこかで水難事故が起こっています。神頼みだけに頼らず、職員でしっかり見守りながら、子どもの泳力を伸ばしていきます。

トイレのスリッパは、心の鏡

右は、あるトイレ入り口の掲示です。学校の、こうした地道な取組も、子どもの心の成長を支えています。出船の形に揃えられたスリッパが並んだトイレは、きっと使われ方もきれいです。相手を思いやる心は、行動として、こうしたところに現れます。

